

ながはま みがが かんの人 長浜の身代わり観音

金沢区の称名寺に『海中出現観世音菩薩』がまつられています。

この仏様、昔の名前は「長浜観音」という長浜観音堂の御本尊でした。

それがどうしてこんなに長い名前に変わって、称名寺にあるのかをお話ししよう。

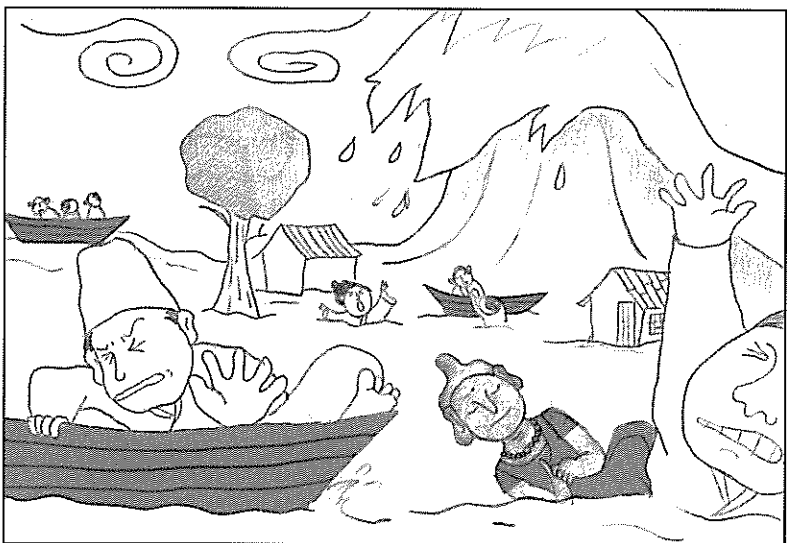
今から700年程昔、長浜の村人達の大半が漁師で、いつも観音堂の観音様にお参りをしていました。人々は観音様を信じ大切に思い、観音様はそんなみんなを見守っているようでした。

ところが、ある日突然、不幸な出来事が起こりました。

今までに見た事も聞いた事もない大きな「津波！」。波は海に向こうに「グワツ」と現れ、幾重にも重なり、ものすごい早さで海岸に押し寄せ、それはたちまち大きな津波となり、「アツ」と言う間に村と観音堂を呑み込んでしまいました。一瞬で海に投げ出された人々は、荒れた海の中でひたすら祈り口々に助けを求めました。すると不思議なことが起こりました。暗い海のどこからか沢山の舟が現れたのです。村人達は夢中で舟にしがみつき飛び乗りました。全員が助かり無事を喜び合った村人達は、観音堂も流された事を知りました。夢中で観音様を探し始めた時、村人達はなにか声を聞いたような気がしました。声はだんだん大きくなり、どうやらそれは深い海の底から盛り上がるように聞こえて来る観音様の声でした。

「早く舟を出しなさい。そして舟が着いたところに住むのです。みんなで力を合わせて新しい村を作りなさい。そこを『小柴』と呼んで、仲良く暮らすがい。」と言うと、声はスーッと海に吞まれて消えてしまいました。村人達は、長浜の観音様が身代わりになって、自分達を助けてくれた事を知りました。みんなは観音様に両手を合わせ、一生懸命舟をこぎ、思い出の沢山残る長浜の海岸を去りました。

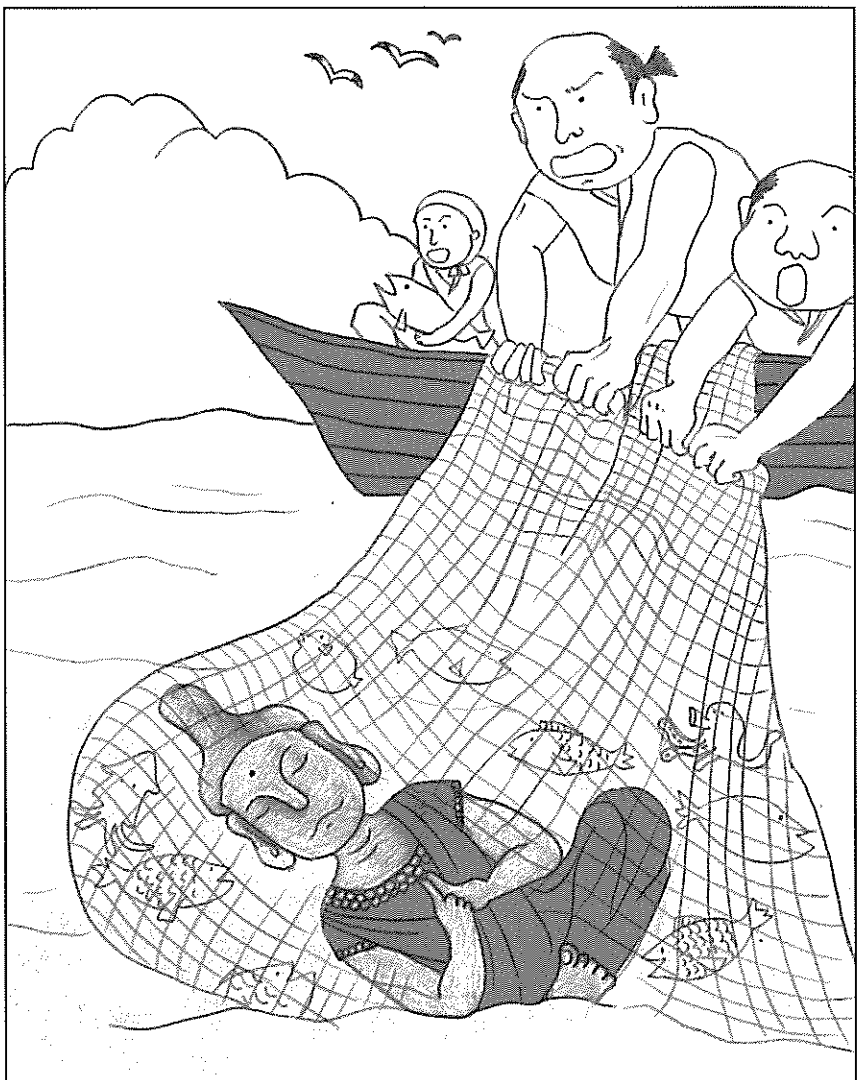
小柴に着いた村人達は観音様の教えのお



り、力を合わせそこに新しい村を作りましたが村人の心からは、身代わりになってくれた観音様の姿が消えることはありませんでした。

やがて時が経ち、あの時海に投げ出された子ども達もすっかり大人になり、海で働く漁師になりました。そして、ある年の秋、海から網を引き上げていた村人達は、何かピカリ！と網の底で光る物を見ました。とても不思議な光に、「なんだろう？」と、みんなで引き上げると、村人達がいつも心の中で感謝していた観音様だったのです。村人達は泣いて喜びました。海から引き上げられた時、長い間海に沈んでいた観音様の体には沢山の貝殻がついていましたので「貝付観音」とも呼ばれるようになり、村人達は立派なお堂を建て「身代わり観音」として大切にまつりました。

その後いつの頃からか称名寺に移され、海から現れた由来のとおり『海中出現観世音菩薩』と言う長い名前になってまつられています。



※この民話に書かれている長浜の天津波についての歴史的事実は確認されていません。

文 氏家 總子(ふさこ)

絵 池田 利恵